

令和4年度 第2回 学校運営協議会 記録

1 日時 令和4年10月18日(水) 午前9時30分から午前11時30分まで

2 場所 沼津視覚特別支援学校 会議室

3 出席者

(1) 外部委員

第五地区西連合会 副会長

東部社会教育振興協議会

特定非営利活動法人ティンクル

和太鼓奏者・本校卒業生

本校PTA

(2) 学校職員

校長 副校長 各学部主事、主任



<会議の様子>



<花壇を見学>

4 日程

校長挨拶

花壇植栽の経緯、当日の様子を紹介

校内参観(花壇見学)

花壇について 地域との連携・今後の継続に向けて

学校への期待、要望等

5 会議報告

花壇植栽について

<御感想>

植栽参加者より

- ・植栽をした時の子どもたちの笑顔がよかった。作業が多くて大変そうだったが、達成感を感じていたようだった。
- ・参加した大人たちも、子どもたちと触れ合えてよかったと言っていた。
- ・小学部2年生がよく育っていると思った。植栽後の感想発表で、ただ「楽しかったです」「よかったです」と言うのではなく、理由などをつけて発表していた。これから

の社会を生きる子供たちに必要な力が付いていることを感じた。

運営協議員より

- ・花壇の管理を通じて継続して関係が続くとよい。
- ・地域との連携の第一歩。一緒に活動する・できるのが良い。
- ・「植栽」というのが良い。球根から植えると、完成形が想像しづらいが、植栽をすると完成形が見えて、共有しやすい。一緒に愛情を持つことができる。
- ・教員が一步下がって、子どもたちと地域の方々との関わりを大切にしている。地域で子供たちを育てようという思いも伝わる。

学校職員より

- ・植栽作業の事前に、一緒に作業をする地域の方々の顔写真を教室に掲示していたことで、子どもたちが楽しみにしていて、地域の方々の名前を憶えていた。
- ・当日は地域の方々がとても優しく丁寧に接してくれた。好きな花を選ばせてくれる様子も見られ、子どもの意思を尊重していただいた。
- ・「植えて終わりではなく、植えてからがスタート」という造園屋さんの言葉が印象に残った。

<御意見>

- ・花壇に名前をつけるとよい。四季ごとに植栽の計画があればよい。
- ・三島の緑化センターで花苗はもらえるかも。
- ・毎回固定化したメンバーではなく、いろいろな世代の方との交流の機会があるとよい。
- ・福祉施設で花苗を作っているところと連携し、花苗を提供してもらうことができるとういかも。
- ・野菜作りでも交流をしてはどうか。イチゴなどの果物や、ハウスづくりなど、地域の詳しい方々のノウハウを生かしてはどうか。
- ・高等部でも、授業の合間の息抜きに土いじりをしてみてはどうか。
- ・苗の手配など、学校だけでは手が回らないかも。学校と地域をつなぐコーディネーター的な人がいるとよい。各校独自のコーディネーターを置くことはできるか。
- ・水やりに来てくれる地域の方に、花壇の近くに掲示板などを設置しておき、学校からの情報を発信するようにはどうか。
- ・小学部2年では、毎週木曜日昼休みに花壇の水やりをする予定。そこで一緒にどうか。

学校への期待、要望等

- ・高等部の施術の機会を楽しみにしている方も多。機会がもっとあるとよい。
- ・水やりの交流が持続できるとよい。
- ・指導が充実している。
- ・タブレット端末を使って学習をしていることを、知ってはいたが目の当たりにして衝撃を受けた。
- ・コロナ禍前に地域交流の一つとなっていたPTAバザーを復活してほしい。